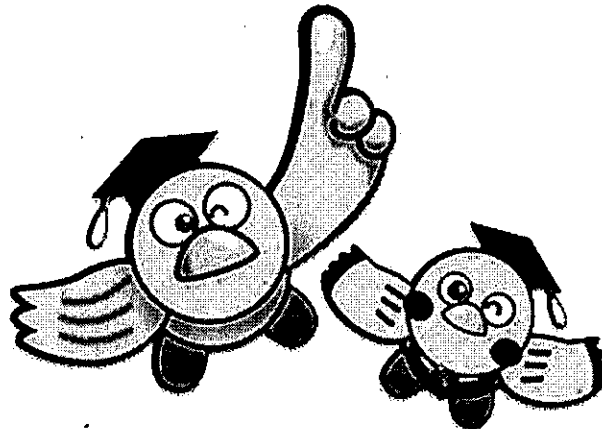


東部地区学力向上推進協議会

研究校・学力向上実践事例集



埼玉県のマスコット「コバトン」「さいたまっち」

「未来を生き抜く人財育成」学力保障スクラム事業
学 力 向 上 研 究 校 指 定 事 業

令和2年度東部地区学力向上推進協議会

埼玉県教育委員会

目 次

挨拶

埼玉県教育局東部教育事務所 所長 高橋 和治
 東部地区学力向上推進協議会 会長 竹森 努

各教育委員会・各学校の実践事例

松伏町教育委員会	2
松伏町立松伏第二小学校	5
三郷市教育委員会	10
三郷市立彦成小学校	14

令和2年度 東部地区学力向上総合プロジェクト

東部地区学力向上総合プロジェクト本體會議
 東部地区の児童生徒の学力・学習状況を把握し、児童生徒の学力向上に資するための「東部地区学力向上総合プロジェクト」企画・立案を行う。

東部地区市町教育委員会 学力向上推進協議会
 東部地区の学力向上総合プロジェクトの推進を図る
 東部地区の学力向上推進協議会による学力向上に関する取組の推進

1. 学力向上ワークシート作成会議
 学力向上ワークシートを作成
 東部地区市町教育委員会、各教育委員会、各小学校、各中学校、各高等学校、各特別支援学校、各教育委員会、各教育委員会

2. 授業エキスパートを目標とする授業研究会
 学力向上の観点から、各小学校、各中学校、各高等学校、各特別支援学校の授業研究会を推進
 各小学校、各中学校、各高等学校、各特別支援学校、各教育委員会

3. 「未来を生き抜く人財育成」学力保障スクラム事業
 学力向上の観点から、各小学校、各中学校、各高等学校、各特別支援学校の学力保障スクラム事業を推進
 各小学校、各中学校、各高等学校、各特別支援学校、各教育委員会

4. 学力向上推進のためのホームページコンテンツの充実
 学力向上の観点から、各小学校、各中学校、各高等学校、各特別支援学校のホームページコンテンツの充実を図る
 各小学校、各中学校、各高等学校、各特別支援学校、各教育委員会

5. 「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業
 学力向上の観点から、各小学校、各中学校、各高等学校、各特別支援学校の「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業を推進
 各小学校、各中学校、各高等学校、各特別支援学校、各教育委員会

6. 「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業
 学力向上の観点から、各小学校、各中学校、各高等学校、各特別支援学校の「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業を推進
 各小学校、各中学校、各高等学校、各特別支援学校、各教育委員会

7. 東部地区学力向上推進協議会(協議会、研究校連絡会、研究発表会)
 東部地区の学力向上推進協議会、研究校連絡会、研究発表会を推進
 各小学校、各中学校、各高等学校、各特別支援学校、各教育委員会

8. 学力向上推進のためのホームページコンテンツの充実
 学力向上の観点から、各小学校、各中学校、各高等学校、各特別支援学校のホームページコンテンツの充実を図る
 各小学校、各中学校、各高等学校、各特別支援学校、各教育委員会

9. 「未来を生き抜く人財育成」学力保障スクラム事業
 学力向上の観点から、各小学校、各中学校、各高等学校、各特別支援学校の学力保障スクラム事業を推進
 各小学校、各中学校、各高等学校、各特別支援学校、各教育委員会

10. 「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業
 学力向上の観点から、各小学校、各中学校、各高等学校、各特別支援学校の「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業を推進
 各小学校、各中学校、各高等学校、各特別支援学校、各教育委員会

「第3期埼玉県教育振興基本計画」
 (平成31年度～令和5年度)
【基本理念】
「豊かな学びで 未来を拓く埼玉教育」

●東部地区学力向上総合プロジェクト

- ①学力向上ワークシート作成会議
- ②授業エキスパートを目指す授業研究会
- ③英語教育に係る事業
- ④校内研修を支援する学校訪問
- ⑤良い授業を見つけ！広めて！学力UP 事業
- ⑥学力向上推進のための
・ホームページコンテンツの充実
- ⑦東部地区学力向上推進協議会
(研修会、研究校連絡会、研究発表会)
- ⑧学力向上研究校指定事業
- ⑨「未来を生き抜く人財育成」学力保障
スクラム事業
- ⑩「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業

挨拶

埼玉県教育局東部教育事務所

所長 高橋 和治

現在、埼玉県では、「第3期埼玉県教育振興基本計画」のもと、児童生徒の確かな学力の向上を目指し、「埼玉県学力・学習状況調査」を活用した個に応じたきめ細かな指導の実現に向けた取組を進めております。また、これからの時代に求められる資質・能力の育成に向けた教育課程を着実に実施するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進するとともに、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立に向けた支援を行っているところです。

東部教育事務所では、こうした県の方針を具現化するため、学校・家庭・地域、市町教育委員会、教育事務所が連携、協働しながら子供たちの学力向上を図る「東部地区学力向上総合プロジェクト」を策定し、県委嘱の研究委嘱校への支援を始めとする10の事業を位置付け、取り組んでいるところです。

しかしながら、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、一部の事業の開催を見合わせなければならない事態となってしまいました。そのような中でも、各学校では、新しい生活様式に則った指導について、子供たちを第一に考えた適切かつ迅速な御対応をいただきました。心から感謝をいたします。

研究委嘱校及び関係市町教育委員会におかれましては、臨時休業措置の影響による限られた研究推進の中で、「埼玉県学力・学習状況調査」の分析結果等の活用や「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善に取り組まれ、本実践事例集の作成に御尽力いただいたことに、深く感謝申し上げます。

各学校におかれましては、これらの取組事例を有効に活用し、児童生徒一人一人の確かな学力の育成に一層の御尽力を賜りますようお願いを申し上げ、挨拶いたします。

東部地区学力向上推進協議会

会長 竹森 努

今年度は、新型コロナウイルス感染症による未曾有の事態に見舞われましたが、学校・家庭・地域及びすべての機関が力を合わせ、困難な壁を一つずつ乗り越えてきました。長い休校期間をやっとの思いで抜けた、学校再開の日。登校してきた子供たちの変わらない笑顔に出会えた時、教師としての喜びと責任の重さを誰もが感じたことと存じます。

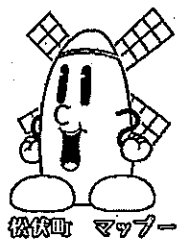
また、今年度から、小学校及び義務教育学校前期課程において学習指導要領が全面实施となりました。中学校及び義務教育学校後期課程においても、令和3年度からの全面实施となります。未来を担う子供たちが社会の激しい変化に対応していくためには、どのような時代にあっても身に付けておくべき基礎的・基本的な力と、どのような変化にも柔軟かつ創造的に対応できる力の双方が求められます。

各学校におかれましては、学習指導要領の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や、カリキュラム・マネジメントの確立に向けた校内研修を進めていることと存じます。今後も、学校教育における不易と流行を見極めつつ、学校間の連携を密にしながら、学力向上に係る諸課題に対応していくことが重要です。

本年度の東部地区学力向上推進協議会では、「未来を生き抜く人財育成」学力保障スクラム事業及び「学力向上研究校指定事業」の2事業について、各市町教育委員会と研究委嘱校が連携・協力し、工夫を凝らした実践が進められました。この「研究校・学力向上実践事例集」には、各研究の実践から得られた成果や課題、改善策等が掲載されています。

東部管内の小、中学校及び義務教育学校におかれましては、本実践事例集を御活用いただき、各校の指導内容の充実や指導方法の改善等に役立てていただければ幸いです。

豊かな文化の担い手と思いやりのある心をはぐくむ松伏の教育



松伏町 マッパー

一心豊かにたくましく生きる松伏の子の育成

- 教委名 松伏町教育委員会
- 所在地 松伏町大字松伏2424番地
- TEL 048-991-1864
- E-mail kyosomu@town.matsubushi.lg.jp
- ホームページ <http://www.town.matsubushi.saitama.jp>

1 研究主題

豊かな文化の担い手と思いやりのある心をはぐくむ松伏の教育
一心豊かにたくましく生きる松伏の子の育成

2 研究の実践

(1) 松伏町学力向上プランに基づく学力向上策の推進

松伏町学力向上プランでは、学力向上における目指す児童生徒像を明確にし、町内の全小中学校で共通して取り組むべき学力向上策について「6つの視点」で示している。



【松伏町学力向上プラン】

ア 松伏授業プランによる授業改善

本町の学力向上における重点取組として位置づけている。

1時間の授業の流れを示したもので、町内の研究授業や年次研修等のあらゆる機会を活用して、松伏授業プランに沿った指導・助言を行い、授業改善の推進を図っている。



【松伏授業プラン】

イ 教員の指導力の向上

① 町年次研修の実施

1年次から3年次の教職員及び臨時的任用教職員は全員、4年次から9年次の教職員は希望者を対象とし、年次研修を実施している。松伏授業プランの実現を目指した授業改善、学習指導方法や学級経営についても指導・助言の機会としている。

② 町研究委嘱と研究発表会の実施

町内5校の学校に対し、順番に2年間の研究委嘱をし、学校課題研究の推進を支援している。委嘱2年目は本発表の年と位置づけており、町内全教職員の参加のもとに研究発表会を行うことで、研修を深めるとともに、小中連携を図る機会としている。

ウ 個に応じた指導の充実

① 松伏町小中学校学力テストの実施・分析

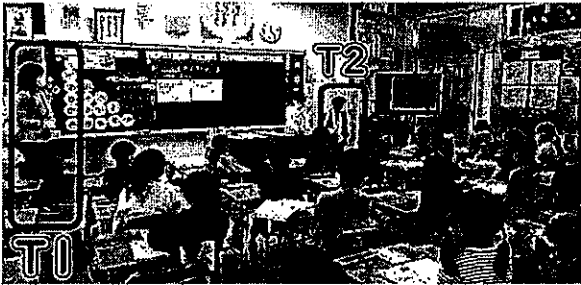
小学校1～4年生は国語・算数の2教科、小学校5・6年生は国語・算数・理科・社会の4教科、中学校1・2年生は国語・数学・理科・社会・英語の5教科で実施している。

1月に実施することで、学習の定着度を測るだけでなく、年度の取組についても振り返ることができ、児童生徒の個別の支援や、教員の授業改善につながっている。また、翌年度当初に実施される全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査に向けて、課題が明らかになることから、各校において具体策を講じるための一助となっている。

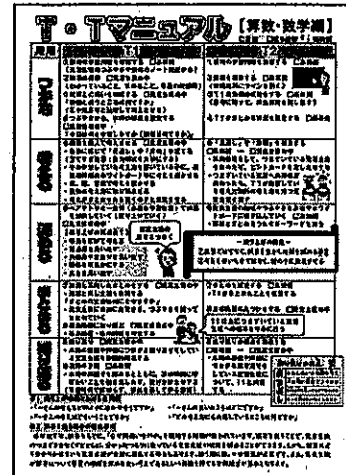
②教育支援員の配置と教員の負担軽減（教材研究の時間の確保）

町内小中学校5校に町費採用による独自の教育支援員16名（1日7.5時間、年間190日）を配置し、TTや少人数指導、習熟度別学習等に活用するなどして、個に応じたきめ細かな指導を展開している。

教育支援員は、授業中の支援の他に、プリントやテストの採点、教材・教具や掲示物の作成等、教員の事務的な作業も担い、教員の負担軽減となっている。



T1・T2の役割
分担を明確にし、
TTの効果を最大
限に発揮する為…



【T・Tマニュアル】

授業改善を推進する中で、本町の特色である充実した教育支援員を効果的に活用していくことをねらいとし、チーム・ティーチングにおけるT1・T2の役割を松伏授業プランに沿って明確にした「T・Tマニュアル」の作成に取り組んでいる。

(2) 町内全小・中学校における共通取組事項

松伏町は小学校3校、中学校2校と学校数が少ない。少ないからこそ、共通理解・共通行動がとりやすいという「強み」がある。「5校は1つ」を合い言葉に、町内の小中学校が連携して取り組み、「義務教育の9年間を通して児童生徒を育てていく」という意識を教職員一人一人が持てるようにしている。

ア 授業の約束「5校はひとつ松伏っ子」の定着

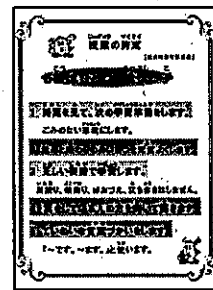
授業の約束を作成し、小中学校全クラスに掲示し、児童生徒に意識付けを図っている。また、毎年度2月に児童生徒を対象にアンケートを実施し、結果の分析を行い、次年度の重点項目を決めて取り組むことで、確実な定着を図っている。

イ 家庭学習の充実

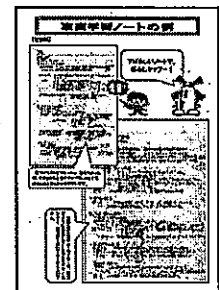
家庭学習の充実を図るために、小1～中3までの家庭学習の進め方を示した「家庭学習のすすめ」を全小中学校の児童生徒を対象に配付し、取り組んでいる。

ウ 松伏町学力向上推進委員会での各校の実践共有

各小中学校において「松伏授業プラン」に基づく授業改善推進状況についてまとめた資料を持ち寄り各校の優れた実践を共有している。



【授業の約束】



【家庭学習のすすめ】

3 研究の成果と課題

本町の最重要課題は、学力の向上である。学力を向上させるには、本町の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進していくことが最も大切なことであると考えます。

今後も、本町の児童生徒や教職員の状況を的確に把握し、必要に応じて授業改善へとつながる指導や助言を行いながら、未来の松伏町を支える「心豊かでたくましい児童生徒の育成」を目指していく。

T・Tマニュアル【算数・数学編】

◎活動 □立ち位置 『発問例

段階	T1	T2
つかむ	①前時の学習内容を確認する □黑板前 (児童生徒のつぶやきや前時のノート記述から) ②問題の提示 □児童生徒の中 (わかっていること、求めること、単位の確認等) ③既習との違いを確認する □児童生徒の中 「前回と違うところは何ですか」 (①や掲示等と比較して考えさせる) ④つぶやきから、本時の課題を設定する □児童生徒の中 「今日は何を学習しますか(課題は何ですか)」	①前時の学習内容を板書する □黑板前 ②問題を板書する □黑板前 (確認箇所にはラインを引く) ③T1の発問の補助をする □黑板前 (思考に沿って、該当箇所を指し示す) ④T1がまとめる課題を板書する □黑板前
考える	⑤問題を個人で考えさせる □児童生徒の中 ・必要に応じて「見通し」や「作戦」を立てる (立てすぎ注意：自力解決を大切に) ・予め予想していた考え方を書いている子に、黒板掲示用のホワイトボード等に考えを書かせる ・式、図、言葉で考えを書かせる ・複数の考え方に組みあわせる ・考えがまとまったら近くの子と交流させる	⑤「見通し」や「作戦」を板書する □黑板前 → □児童生徒の中 ・机間指導をして、つまづいている児童生徒を集めたり、ヒントカードを渡したりする ・つまづいている児童への指導が終わったら、T1が把握している考え方以外の考え方を持つ児童生徒を探す
深める	⑥ペアやトリオ→全体(必要な学習形態)で課題を解決していく(練り上げていく) □児童生徒の中 【練り上げの視点※1】 ・場面を広げて考える ・相違点を見いだす ・共通点やきまりを見いだす ・根拠を明らかにする ・良さを見いだす 児童生徒の思考をつなぐ	⑥児童生徒の説明やつぶやきを黑板やホワイトボードに書き込んでいく □黑板前 ・課題とまとめをつなぐキーワードを拾う ~練り上げの極意~ ①正答だけでなく、誤答を生かし理解を深める※2 ②考えを書いた子ではなく、別の子に発表させる
まとめる	⑦課題と正対したまとめをする □児童生徒の中 ・課題と同じ主語を意識する 「まとめの主語は何になりますか」 ・児童生徒に自由に発言させ、つぶやきを拾ってまとめていく ⑧適用問題に取り組む □児童生徒の中 ・基本問題・応用問題を用意する	⑦まとめを板書する □黑板前 ・T1がまとめたことを板書する ⑧適用問題の丸つけをする □児童生徒の中 T1は主につまづいている児童生徒への指導を中心に行う
振り返る	⑨振り返り □児童生徒の中 ・本時の課題や評価につながる振り返りをしている児童生徒を意図的指名する ⑩次時の予告 □黑板前 ・本時の頑張りを認めるとともに、次の時間に学びたいことを引き出したり、投げかけたりする(単位時間で区切らず、単元を通して学ぶ意識)	⑨振り返りの視点を掲示する □黑板前 → □児童生徒の中 ・本時の課題や評価につながる振り返りをしている児童生徒について、T1と共有する 振り返りの視点 まねしたいな友達の考え 次は何に役立てようかな 今日は何を学ぶことができたかな もっと知りたいなこんなこと

※1 練り上げ場面における発問例

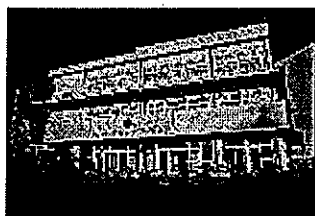
- ・「～さんの考えをどのように活かそうですか」
- ・「～さんの良いところはどこですか」
- ・「～さんの考えはどういうことですか」
- ・「どの考え方にも共通しているところは何ですか」

※2 誤答を扱う場合の留意事項

県学調では、誤答をもとに、「なぜ間違っているのか」を説明する問題が扱われています。誤答を扱うことで、児童生徒のつまづきをなくすとともに、分かったつもりになっている児童生徒の理解を深めることができます。しかし、誤答により分かりかけていた児童生徒が余計に混乱する場合があります。扱う際には、十分留意が必要です。また、児童生徒が誤答について学習の理解を深める良い考えであるという認識を持てる学級経営が基本となります。

学習意欲が高く、主体的に学ぶ児童の育成

～「できた！わかった！楽しい！」を実感できる授業づくり（算数科）～



○学校名	松伏町立松伏第二小学校
○所在地	北葛飾郡松伏町田中1丁目4番地6
○電話番号	048-992-0365
○E-mail	mtnsyo2@gmail.com
○URL	http://matsubushi.ed.jp/matu2syo/

1 研究主題

(1) 学習意欲が高く、主体的に学ぶ児童の育成

～「できた！わかった！楽しい！」を実感できる授業づくり（算数科）～

(2) 研究主題設定の理由

本校の児童は、明るく、とても素直で、元気いっぱい学校生活を送っている。

本校は、これまで、算数科を中心に「思考力・判断力・表現力を育む指導方法の研究」をテーマに取り組んできた。授業形態の工夫や効果的な板書の仕方、児童のノートの取り方等に重点を置き、授業改善を進めてきた。

本年度より「未来を生き抜く人財育成 学力保障スクラム事業」の指定を受けた。本事業の趣旨を踏まえ、これまでの研究を継続しつつ、児童の「学習意欲」の向上を最重要課題としてとらえ、本校が先ず取り組むべき内容を学習への自信と向上心の育成とした。個の困り感に寄り添い、どの児童も「できた！」「わかった！」と感じられる授業展開をすることで、学習が楽しいと実感できるはずである。（学習への自信）。これにより、児童は主体的に自分の力を高めるために、学習に向かうことができる。（学習への向上心）。

そして、結果として、「学習意欲」が向上し、学力向上に繋がると考え、本研究主題を設定した。学校が一丸となり、本事業指定の2年間で、子供たちのために「学習意欲が高く、主体的に学ぶ児童の育成」を目指し取り組んでいく。

(3) 目指す児童像

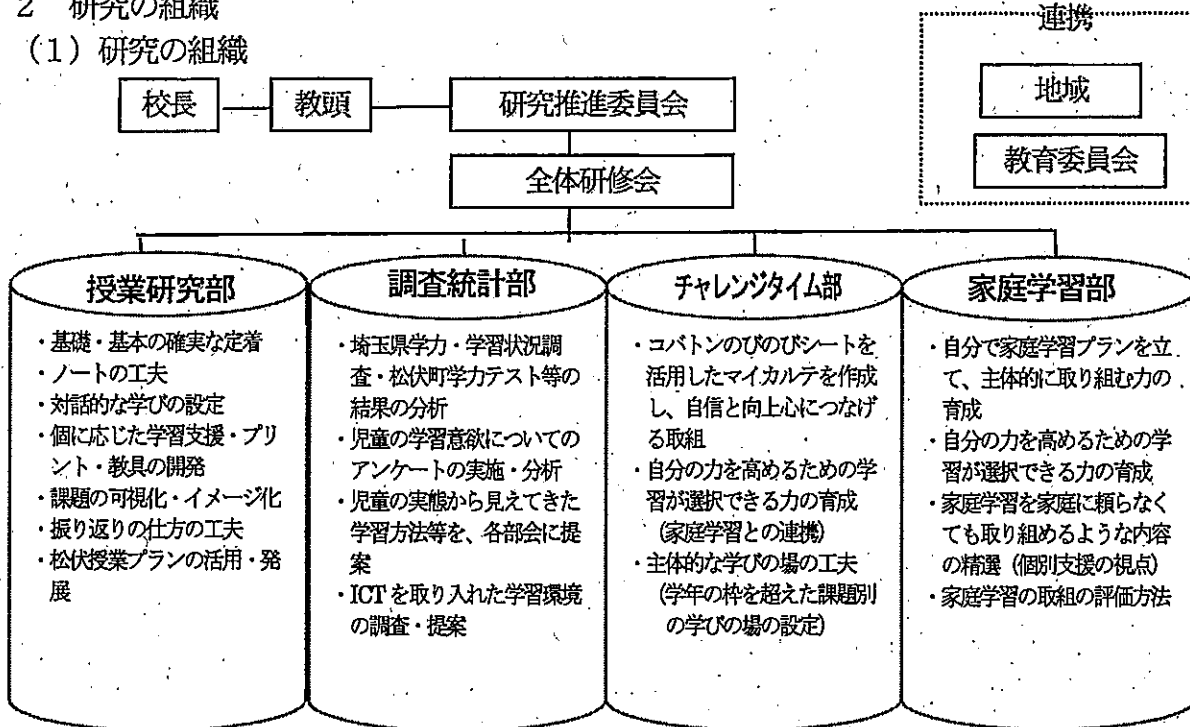
- 主体的な学びに向かう意欲溢れる児童
- 自己効力感・やりぬく力が向上し、自ら考え解決できる児童

(4) 効果の検証

- 埼玉県学力・学習状況調査
- 松伏町小中学校学力テスト
- 校内アンケート
- アセステスト

2 研究の組織

(1) 研究の組織



(2) スクラム加配の位置づけ・役割

本校のスクラム加配は2名。(そのうち1名は5分の3と5分の2の短時間勤務) それぞれの得意性を生かし、役割の明確化を図る。

A 教諭	授業分析・実態調査と授業提案・HP等での学力向上の取組の広報等
B 教諭 (3/5)	特別支援の視点に立ったアセスメント・UDの視点の授業展開の提案・教材教具の提案
C 教諭 (2/5)	学力向上に関わる学習室や廊下等の掲示物の作成・若手教員の指導助言

(3) 授業づくり・学級づくりの7つの柱について

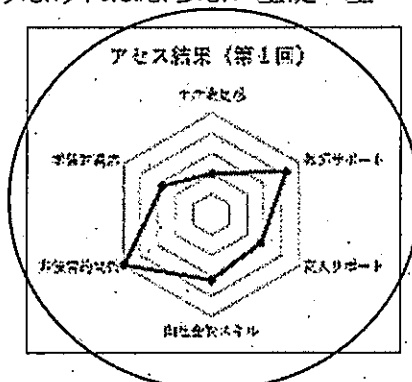


埼玉県学力・学習状況調査の結果からも、学力と学級経営に相関関係があることが示されている。そこで、再度、子供たちの学習意欲・学力の向上をねらう視点として、「授業づくり・学級づくりの7つの柱」を整理し、全職員で意識して取り組むことが必要であると考えた。今年度は、この7つの柱について、様々な経験から意見を出し合い、具体的な指導方法を一覧表に整理していく。

(4) 授業改善・授業力向上に向けての取組

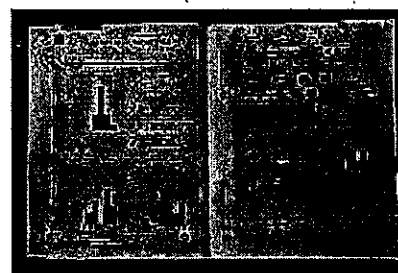
①少人数・習熟度別・TT等の授業形態の工夫

本校は、1・2年生に支援員が一人ずつ、3年生には支援員と少人数加配、4年生・5年生にはスクラム加配、6年生には少人数加配が配置されているため様々な授業形態をとることが可能である。単元によって形態を変えることで、より効果的な授業が展開できると考える。また、各学年で身につけなければならない基礎・基本の定着にも大きな効果が期待できる。年間指導計画に授業形態の案を書き込むなど、実践の積み重ねを図る。



②多くの目で児童理解を深めて実施する個別支援

すべての時間で多様な個に応じた指導を継続することは、非常に困難であると考えられる。そこで、「必要な子にはなくてはならない支援、どの子にもあると便利な支援」の視点であるUDを取り入れた授業展開をしていく。本校は「アセス」を使ったアンケートを実施している。その結果において「教師からの支援」を受けていると感じる児童は多いものの「学習意欲」「生活満足度」の項目では課題が残った。この結果から「支援が必要な子に対する適切な支援の方法」が課題となった。学習意欲が低い児童は基礎・基本の定着がされていないなかったり、個々の困り感の課題があったりすることが分かってきている。どの子も意欲的な授業参加ができるよう、専門家チーム（SC・特別支援コーディネーター・Dr等）や関連機関とも連携しながら、研修を進めていく。また個別の支援においても、児童の実態を把握し、必要なヒントカードや教具の提供・研究をしていく。



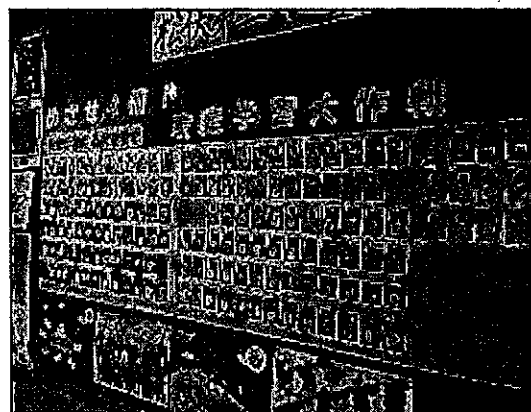
③児童の思考が広がるノートの展開

本校では、これまでの研修でノートの書き方の指導を徹底してきており、どの学年においても定着してきている。今後は、その技能を生かし、さらに思考が広がるよう、自ら必要な情報や考え・気づいたことを書き足していけるような指導をしていく。そのために「ノートの書き方ヒントカード」(仮名)を作成し、活用できるようにしていく。

(5) 家庭学習が主体的な学びの場になるための取組

①めざせ4冊！家庭学習大作戦

家庭学習の取組を全校で実施。家庭学習ノート1冊終わると、校長にノートを提出し、賞状をもらえる。これにより、児童はそれを励みに、とても楽しみに取り組むことができた。また、賞状をもらった児童は廊下に掲示されることで、さらに児童に刺激(外発的動機付け)を与え、取組が進んだ。



②個に応じた宿題の提供

全児童に、毎日宿題が出されているが、宿題に取り組まない児童もいる。それを、宿題に「取り組まない」のではなく「取り組めない」という見方に変え、宿題の内容を検討した。宿題に取り組めない児童は、学習を理解できていない児童が多く、家庭に帰った時、一人で解くことができない。そこで、個に応じて、宿題の量・使用ノートの選択・内容・方法等を変えた。学年、副担任と連携し、個に応じた宿題に対応できるよう準備を進めている。

(6) 自分に必要な学びを選択できるチャレンジタイムの取組

①チャレンジプリントの作成

主体的な学びが進められるよう、様々なレベルや内容のプリントを準備する。各階にプリントボックスを準備し、いつでも児童自身に取り組めるような環境を整備する。今年度は放課後、週3回15分の実施。学年を習熟度に分け、少人数で取り組んでいく。15分の流れをパターン化することで、今後、異学年等で取り組む場合にもスムーズに行えると考えている。また、児童が自ら学習に取り組める時間となり、大きな成果が得られる15分になると考える。

今後、チャレンジタイムにおけるICTの活用についても研修を進めていく。

②コパトンのびのびシートを活用したマイカルテの作成準備

今年度、本町は埼玉県学力・学習状況調査の実施がなかったため、昨年度までの資料を基にマイカルテの準備を始めた。児童が自分の力を知り、自分の力を高めるための学びが選択できるような活用を目指している。また学びの足跡を残すことで、自信をつけ、向上心が高まり、新たな目標に向かって取り組めるきっかけにもしていきたい。このシートは、家庭学習でも活用することができると考えている。様々な学びの場面で生かせるようにしていく必要がある。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- 「学習意欲を高めるために」という視点で、教職員が自分の実践を振り返り、話し合うことができた。また同時に先輩教員から若手教員に実践を伝える場にもなり、学校全体の教育力の向上につながった。
- 児童の実態を把握するためのアンケート等の結果から、児童理解が深まった。学習意欲がない児童、学力が身につけていない児童に対しての見方を変えることにつながり、児童の困り感に今まで以上に寄り添えるようになった。

(2) 課題

- 今年度は、研修の方向性等について話を進めることが大半を占め、実践は始まったばかりである。そのため効果の検証にはいきついていない。各部会等で話し合った内容を実践につなげ、成果につなげていきたい。

未来を生き抜く人材育成学力保障スクラム事業(令和2・3年度)

子どもの学び

【目指す児童像】
 ○主体的な学びに向かう意欲溢れる児童
 ○自己効力感・やり抜く力が向上し、自ら考え解決できる児童

家庭学習

- 自分で家庭学習プランをたて、進める力の育成
- 自分の力を高めるための家庭学習が選択できる力の育成
- 家庭学習が、家庭(保護者)に頼らなくても取り組めるような内容の提供(実態把握)
- 家庭学習の取組の評価

チャレンジタイム

- コハトシートを活用したマイカルテを作成し、学びの足跡を残すことで、自信をつけ、向上心が高まるようにする。
- 自分の力を知り、自分に必要な学びが選択できるようにする。
- 主体的に学べる場の工夫(学年の枠を超えた課題別の学びの場の設定)をする。

ほめる!

授業づくり

学級づくりの7つの柱

教師の学び

授業改善・授業力向上

【課題研究】
学習意欲が高く、主体的に学び児童の育成
 「できた!わかった!楽しい!」
 を実感できる授業づくり(算数科)～
 視点1 算数科授業の工夫改善
 視点2 個に応じた指導の徹底
 ○基礎・基本の確実な定着
 ○主体的に判断し、よりよく問題を解決するための資質能力の育成

- ノート指導
- 対話的な学びの場の設定(アクティブラーニング)
- 授業形態・学習形態の工夫
- 個に応じた学習支援のプリントや教具の開発
- 課題の可視化・解決するためのイメージ化
- ふりかえりの仕方の工夫改善
- 松伏授業プランの活用・発展
- ICT活用

算数科中心の授業改善

教育活動全体で行う内容

学びの選択

認められる場づくり

家庭との連携

信頼関係づくり

アセスメント

個別支援

研究仮説

子どもたちの学習意欲が高まれば、主体的に学びに参加し、一人一人の確かな学力の定着につながる

「身に付け、活用」を目指す三郷の授業 ～授業力向上・授業規律の徹底について～



- 教委名 三郷市教育委員会
- 所在地 三郷市花和田 648 番地 1
- 電話番号 048-930-7758
- E-mail shidou1@city.misato.lg.jp
- ホームページ <http://www.city.misato.lg.jp/>

1 研究主題

『身に付け、活用』を目指す三郷の授業
～授業力向上・授業規律の徹底について～

2 研究の実践

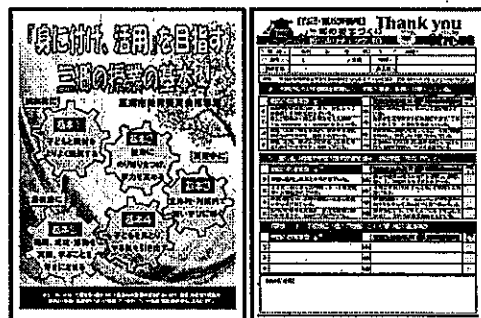
本市では、4年目を迎えた「三郷の子供の夢を育む 第2期学力向上推進5ヵ年計画」のもと、『身に付け、活用』を目指す三郷の授業の基本を全校で共有し、授業規律の徹底、学級経営の充実を基盤に据えた学力向上・授業改善に向け、様々な取組を推進している。

研究の推進にあたっては、指導主事の学校訪問や管理職との面談等を通して、進捗・達成状況を市教委育委員会と各校で共有して緊密に連携し、児童生徒一人一人に確かな学力を育むための施策の改善・強化を図っている。

(1) 授業力向上

ア リーフレットの作成・活用

『身に付け、活用』を目指す授業を展開するために必要となる5つの基本や10のチェック項目を示したリーフレットを作成・配布した。授業改善の指針として、市内全教員が共通理解のもと授業づくりを行う手立てとなり、自身の授業を振り返りながら、授業力向上を図っている。



また、チェック項目の3（課題・見通し）と9（振り返り・まとめ）の項目を重点化し、より具体的に示した3・9（Thank you）シートを作成した。教員の指導した内容が子供の具体的な姿として表れているかを、自己評価・相互評価することができ、教育委員会や管理職だけでなく、教員同士の参観にも活用して、より授業改善を推進している。

イ 教師道場

若手教員を対象として、三郷市教育指導員及び教科等指導協力員が講師となり、小学校学級経営、中学校学級経営、小学校算数、中学校数学、特別の教科道徳、小学校外国語・外国語活動、読書活動の8講座を設けている。参加した教員は、専門的な講義・演習を通して、教材づくりや具体的な指導法を学ぶことができ、充実した研修となっている。

ウ 合同教科会（中学校）

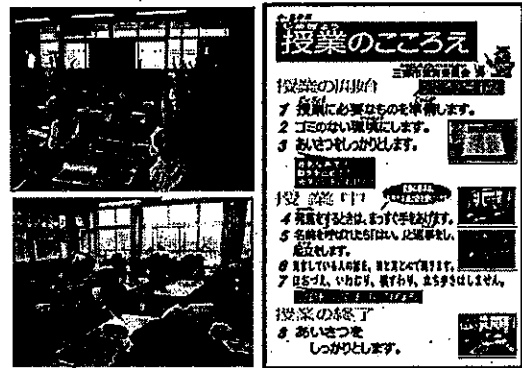
国語・数学・英語の3教科の中学校教員を対象として、市内を2つのブロックに分けて、北・南ブロックそれぞれ2回ずつ研究授業を実施する。
（令和2年度は、研究授業をもとに各教科研究協議会を開催）

指導方法の工夫や教材研究等の協議を行い、指導法の工夫を共有し、各校の進度や取組状況についての情報共有を行っている。

（2）授業規律の徹底

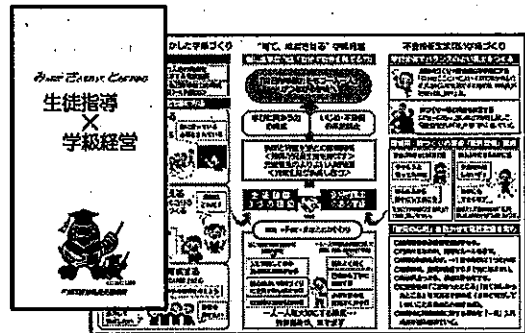
ア 授業の心得

授業規律の徹底に関して、発達段階別に授業における約束を8項目定めた「授業の心得」を作成し、全小中学校で共有して、取り組んでいる。ポスターの掲示や、毎学期アンケート調査・分析し改善を図ることで、集中して学習する雰囲気が醸成されている。



イ 生徒指導×学級経営

互いを認め受け入れ、支持的風土が根付く学級経営を目指し、「生徒指導×学級経営」リーフレットを市内全教職員に配付した。生徒指導3つの要素を意図的に機能させる具体の取組例等を掲載し、個人や校内研修、教育員会主催の各種研修会で幅広く活用し、生徒指導、学級経営の充実に努めている。



3 研究の成果と課題

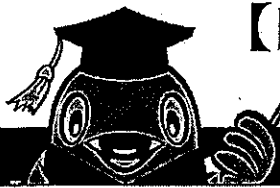
（1）成果

「身に付け活用を目指す三郷の授業」について、市内全小中学校において、子供の姿で評価する視点を定め、授業を展開することを周知・徹底することで、各学校で具体的な授業改善が推進されている。

学級経営・生徒指導に関する、より具体的な指導内容や方法をまとめた資料を作成し、各種研修会で活用すること、学校訪問の際には、確実に見届け指導・助言を行うことで、整然とした環境の中で学習が展開されてきている。

（2）課題

確かな学力を一層育成していくため、学ぶ意欲の向上や個別指導の充実に努めるとともに、学力上位者をさらに引き上げるための具体的な手立てが必要である。



【自己・相互評価用】

Thank you

三郷の授業づくり 振り返りチェック 10

日時	令和 年 月 日() / 時間:	
場所	() 学校	教科
授業者名		記入者

評価：教師の指導項目と児童生徒の姿のどちらもできていれば○ どちらか一方でもできていなければ△

3 本時のねらいや課題を明確にし、学習の見通しを持たせ導入している。

	教師の指導項目	児童生徒の姿	評価 ○△
①	活動時間確保のため、導入（原則5～7分程度）を端的に行っている。	➔ 教師の指示に従い、集中して話が聞いている。	
②	導入では興味・関心を持たせるための工夫（具体物操作・ICT・掲示物等）をしている。	➔ 身近な生活や事象と関連付けて考え、「やってみよう」と意欲が高まっている。	
③	課題（本時で何を学ぶか）設定までの発問が分かりやすく、精選されている。	➔ 既習事項との違いに気づくなど、本時の課題を理解し、発言したり書いたりしている。	
④	課題（問題）解決までの見通しを持たせるために分かりやすく説明している。	➔ 自力解決（どのように進めるか）に向けて行う活動を理解し、すぐに進めている。	

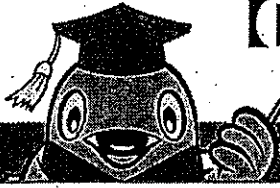
9 振り返りの場で学習内容の定着を図り、次の学習につなげている。

	教師の指導項目	児童生徒の姿	評価 ○△
①	課題に正対したまとめをさせている。	➔ 自分や他者の考えの良さを理解し、課題に対して、自分の言葉でまとめている。	
②	まとめ・振り返りの時間（5～10分程度）が確保されている。	➔ 本時の学習（何を学んだか）を整理する時間がある。	
③	練習問題など、本時の課題に正対した振り返りをさせている。	➔ 練習問題等により、向上したことや学び方の良さを生かして、振り返りに取り組んでいる。	
④	ねらいの達成を見届け、新たな課題や問いを発見させ、次時につなげている。	➔ 感想などから、できるようになったことを実感し、次時への意欲が高まっている。	

【項目 1】 学校独自（個人の目標）として取り組む重点項目

	教師の指導項目	児童生徒の姿	評価 ○△
①		➔	
②		➔	
③		➔	

【自由記述欄】



【自己・相互評価用】

三郷の授業づくり
3・9(Thank you)シート

留意点

3・9シートは、「振り返りチェック10」の項目3と9に対して、

- ①指導項目の内容をより詳しく示し、
- ②その指導が児童生徒の具体的な姿として評価することをねらいとしています。

授業は子供が主役で、学びを支えるのが教師の役目です。

押さえておきたいポイント



項目3	課題設定	今日の授業で「何を学ぶか」を、既習事項との関連や児童生徒の疑問・必要感から引き出す活動。
	見通し	児童生徒自身が自力解決できるように、「どのように学ぶか」が分かる活動。
項目9	まとめ	本時の課題と正対し、教師が支え、「何を学んだのか」を整理し、まとめていく時間。
	振り返り	児童生徒が練習問題等により、向上したことや学び方のよさを確認し、できたことを実感するための時間。
重点項目	個人・各校	教員個人や学校で重点項目を定め、教師の指導項目と児童生徒の目指す姿を定めてください。

「身に付け、活用」を目指す三郷の授業

三郷市教育委員会

気力あふれる児童の育成

— 自己肯定感を高め、自己効力感を養う取組をととして —



- 学校名 三郷市立彦成小学校
- 所在地 三郷市彦倉1-133
- 電話番号 048(952)1265
- E-mailアドレス hikonarisho@edu.city.misato.saitama.jp
- HP <http://www.edu.city.misato.lg.jp/hikonarisho/>

1 研究主題

(1) 研究主題

気力あふれる児童の育成

— 自己肯定感を高め、自己効力感を養う取組をととして —

(2) 研究主題設定の理由

本校は、体育の研究を始めて今年度で42年目となる。体育経営で培った「学習規律」を基盤に、学力向上を目指し、「文武両道」を掲げて教育活動を進めてきた。今年度の埼玉県学力・学習状況調査の結果を分析したところ、国語においては「学力の伸び」は5・6年共に県平均を上回る成果を見せた。しかし算数では、「学力レベル」、「学力の伸び」共に県平均には少し及ばなかった。また、その分析の中で、「学力レベル」と「努力調整方略」「非認知能力」の数値には相関関係があることが分かった。

【本校の学力レベル】

学年		国語			算数		
		H31 (平均)	R2 (平均)	学力の 伸び	H31 (平均)	R2 (平均)	学力の 伸び
5年	埼玉県	5-A	6-A	3	5-B	6-C	2
	本校	5-B	6-B	3	5-C	5-B	1
6年	埼玉県	6-B	7-B	3	6-B	6-A	1
	本校	6-B	7-B	3	6-C	6-B	1

【伸びた児童の割合】

学年	国語		算数	
	県平均	本校	県平均	本校
5年	82.1	88.6	65.3	65.8
6年	87.3	89.3	61.1	60.2

【学力レベルと努力調整方略、非認知能力の相関関係】

4年生			5年生			6年生			
学力 (レベル)	努力調整 方略	勤勉性	学力 (レベル)	努力調整 方略	自制心	学力 (レベル)	努力調整 方略	自己 効力感	学習意欲 (算数)
7~6	4.2	3.3	8~7	4.4	4.1	9~8	4.3	3.7	3.7
5	4.2	3.3	6	3.9	3.8	7	4.2	3.5	3.7
4	3.5	3.0	5	3.7	3.9	6	4.1	3.4	3.4
3以下	3.4	2.9	4以下	3.6	3.5	5以下	3.7	2.9	3.3

そこで、「学習方略や非認知能力向上は学力向上につながる」と仮定し、中でも学力向上に大きく寄与するだろうと推測される「努力調整方略」「自己効力感」に重点を置いて学力向上を図ることをねらいとし、本主題を設定した。また、それらの重点においては、算数の授業だけでなく、体育や他教科の授業においてもより意識した授業展開を行い「学級経営力」の向上を図り、「学力向上」につなげていきたい。

2 研究の実践

(1) 授業に係る取組

ア 意図的習熟度別授業の取組

埼玉県学力・学習状況調査の結果より、算数の指導教室を以下のように設定した。

Aクラス	学力Aグループ
Bクラス	学力B・Cグループ
Cクラス	学力Dグループの上位60%
Dクラス	学力Dグループの下位40%

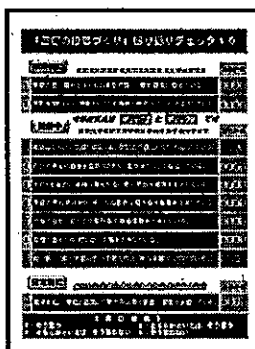
算数研究部において、学校で統一した「授業の進め方」を作成し、4年生以上で実施した。Aクラスにおいては、児童達が話し合いながら練り上げ、まとめていくことやレベルの高い適用問題に取り組むなど「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業展開を行う。Cクラスにおいては、解答に至るまでの活動の見通しをスモールステップで持ち、自力解決の時間を多くすることで、諦めずに最後まで解答しきることや適用問題を意欲的に取り組めるようにする。ステップアップ式に出題し、自力で最後まで解答しきることをねらうなど、「努力調整」のための能力向上を意識した授業展開を行う。Bクラスにおいては教科書の内容をスタンダードに、Dクラスにおいてはドリル学習を取り入れながら基礎力向上をねらうなど、4つのクラスで意図を持って授業を展開することとした。

学年	学力Aグループ	学力B・Cグループ	学力Dグループの上位60%	学力Dグループの下位40%
4年生	本時の学習目標を達成し、学習の見通しをもち、主体的・対話的で深い学びを体験する。	本時の学習目標を達成し、学習の見通しをもち、主体的・対話的で深い学びを体験する。	本時の学習目標を達成し、学習の見通しをもち、主体的・対話的で深い学びを体験する。	本時の学習目標を達成し、学習の見通しをもち、主体的・対話的で深い学びを体験する。
5年生	本時の学習目標を達成し、学習の見通しをもち、主体的・対話的で深い学びを体験する。	本時の学習目標を達成し、学習の見通しをもち、主体的・対話的で深い学びを体験する。	本時の学習目標を達成し、学習の見通しをもち、主体的・対話的で深い学びを体験する。	本時の学習目標を達成し、学習の見通しをもち、主体的・対話的で深い学びを体験する。
6年生	本時の学習目標を達成し、学習の見通しをもち、主体的・対話的で深い学びを体験する。	本時の学習目標を達成し、学習の見通しをもち、主体的・対話的で深い学びを体験する。	本時の学習目標を達成し、学習の見通しをもち、主体的・対話的で深い学びを体験する。	本時の学習目標を達成し、学習の見通しをもち、主体的・対話的で深い学びを体験する。

【別紙参照】

イ 振り返りチェック10 3・9 (Thank you) シートの活用

本市教育委員会作成の「三郷市の授業づくり 振り返りチェック10」を基に、適宜授業の振り返りを行っている。教師自身もしっかりと授業の振り返りを行うことで、「PDCAサイクル」を推進し、より良い授業展開につながることを意図している。また、今年度は「振り返りチェック10」の中の「3 本時のねらいや課題を明確にし、学習の見通しを持たせ導入している」と「9 振り返りの場で学習内容の定着を図り、次の学習につなげている」に焦点を置いた「3・9 (Thank you) シート」も作成され、より明確に「ゴール」を意識した授業展開を行うよう努めた。



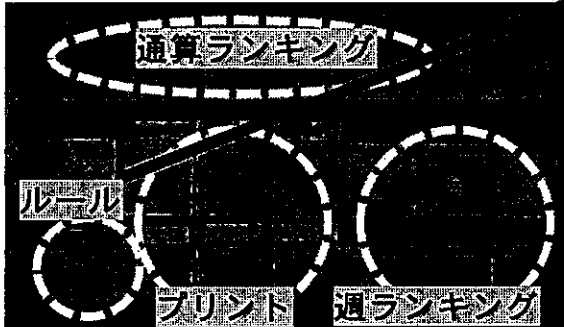
ウ 全学年研究授業

教師の教材分析力、指導力向上の最善の手立ては、研究授業であると考えている。本校は毎年、「各学年1研究授業」を掲げ、全学年が指導者を招いた研究授業を行っている。また、校内研修において、全体で各学年の教材分析、模擬授業・指導案検討会を行っている。自学年以外の教材分析、指導案検討を行うことで、横だけでなく縦の系統性を意識した深い教材理解を培うことをねらいとしている。

(2) 授業外に係る取組

ア 算数チャレンジランキング

職員室前の廊下に「算数チャレンジランキング」コーナーを設定した。算数への学習意欲向上を意図し、右のようなルールで実施している。プリントは週ごとに替わり、獲得したポイントに基づいたランキングを学年ごとに掲示している。



ルール説明

- 自分の学年のカードを揃えてほしい。
- 算数得意目に挑戦しようがチャレンジに入らなす!
- できた問題は先生に申しあげよう!
- チャレンジするたびに1ポイント!
- チャレンジ1人3回まで! 4回目はポイント...
- 1回目で全問正解の3ポイント!
- 2回目で2ポイント!
- 3回目で1ポイント!
- 4回目はポイント...
- 1回全問のズレはボーナスポイントがある...
- ポイントが高くなったのは先生の先生に申しあげよう!
- 毎週火曜日に各学年のランキングを掲示します!

チャンピオン目指して
頑張るぞー!

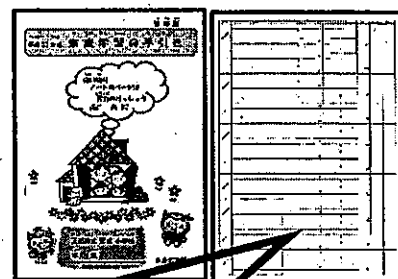
イ パワーアップ教室

昼休みに、各学年の算数を苦手としている児童を対象に「パワーアップ教室」を実施している。「四則計算」に苦手意識を抱えている児童が多く、立式は出来ても計算でつまづいてしまうという場面がしばしば見られた。そのため、計算の技能向上に焦点を絞り、算数少人数担当を中心に実施している。



ウ 家庭学習の充実

本校にはPTA組織の中に、「家庭教育部」が組織されており、家庭学習の仕方やルール等が記載されている「家庭学習の手引き」を発行していただいている。また、今年度は全学年共通の本校独自の「家庭学習カード」を作成した。内容とかかった時間等を見て、集中して家庭学習ができているかどうかを教師が見届け、助言することで、より質の高い学習ができることを意図して行っている。

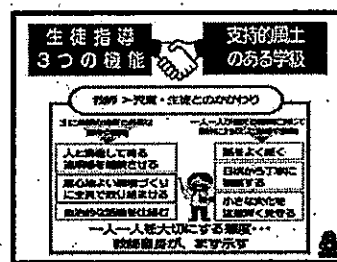
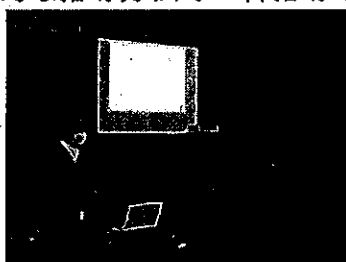


日時	内容	時間	合計	保護者印	担任印
		~			
		~			
		~			
		~			
		~	分		

(3) 研修

ア 三郷市「教師の心得」研修会

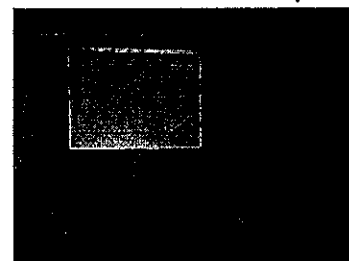
学習方略や非認知能力の向上は、授業の質の向上よりも日頃の「学級経営」の質の向上に拠る所の影響は大きいと考えられる。また、本校は、経験の浅い教員が多く、「学習規律」を徹底していく上で、不安を抱えている教員も多にいる。そのため三郷市教育委員会の指導主事による「教師の心得」研修会を実施した。「学級経営」の基礎となる「学習規律」を児童に確実に定着させるための教師の関わり方や具体的な指導方法等の御指導をいただいた。



イ 学力・学級経営力向上研修会

7月に県教育局市町村支援部義務教育指導課主任指導主事 藤井真仁先生による、埼玉県学力・学習状況調査の帳票の見方、分析の仕方に関わる研修を実施した。目指す児童の姿や調査結果の生かし方について講義いただき、今後、研修を推進していくにあたって本校職員にとって貴重な研修となった。

また、10月には、県教育局東部教育事務所学力向上推進担当指導主事 木村優二先生による「学力向上に係る学級経営力の向上」をテーマに研修を実施した。具体的に「良い学級経営とは？」という抽象的であったり、見解に個人差が生まれたりする内容について、実際に効果的な事例等を挙げていただき、具体的で分かりやすく、大変有意義な研修となった。



3 研究の成果と課題

(1) 成果

全学年1研究授業を行うことで、教師の教材研究力や指導力の向上につながり、教材・教具・指導法の工夫が見られる「おもしろい授業」が増え、それに伴い、意欲的に授業に取り組む児童が増えた。また、改善した家庭学習カードを教師が効果的に活用し、児童の家庭学習の質の向上だけでなく、計画的に集中して学習に取り組めるようになり、学習量の向上にもつながってきている。

(2) 課題

各種調査の結果において、県平均に達している4年生に比べて、5・6年生の無解答率の高さが目立った。「自己効力感」を醸成し、諦めずに最後まで問題に取り組む児童を育てていきたい。また、学力層に関して、ABCDの4つの学力層においてBグループの割合が小さく、Cグループの割合が大きい。学力の二極化を改善するために、意図的習熟度別授業に力を入れて、授業を中心に学力向上を図っていく。

	A	B	C	D
分け方	県学調の学力 A	県学調の学力 B・C	県学調の学力 Dのうち、 上位 60%	県学調の学力 Dのうち、 下位 40%
ねらい	主体的で対話的で深い学び	教科書の内容の定着	「苦手」のコントロールと 学習意欲の向上	基礎力向上
手立て	・児童間での練り上げ ・レベルの高い適用問題		・見通しを持たせる ・自力解決の時間確保 ・ステップアップ式の適用 ・問題	・ドリル学習
	<p>1. 本時の問題を知る。</p> <p>2. 本時の課題を把握する。</p> <p>3. 自力解決をする。 ※<u>図・式・言葉に関連させて説明できるようにノートに書かせる。</u></p> <p>4. それぞれの考えを話し合い、共通点を明らかにする。 ※<u>児童主体の話し合いで練り上げていく。</u></p> <p>5. 本時のまとめをする。 ※<u>子どもたちの言葉でまとめを書かせる。</u></p> <p>6. 適用問題に取り組む。 ※<u>時間を十分にとる。</u> ※<u>応用的な問題を留意しておく。</u></p> <p>7. 本時の学習を振り返る。 ※<u>観点を与える。</u></p>	<p>1. 本時の問題を知る。</p> <p>2. 本時の課題を把握する。</p> <p>3. 自力解決をする。 ※<u>図・式・言葉に関連させて説明できるようにノートに書かせる。</u> ※<u>手が止まっている児童を中心に声をかけていく。</u></p> <p>4. それぞれの考えを話し合い、共通点を明らかにする。 ※<u>全体で課題の解決方法を話し合う。児童の考えをつなぐ発問をする。</u></p> <p>5. 本時のまとめをする。 ※<u>子どもたちの言葉でまとめを書かせる。</u></p> <p>6. 適用問題に取り組む。 ※<u>時間を十分にとる。</u></p> <p>7. 本時の学習を振り返る。 ※<u>観点を与える。</u></p>	<p>1. 本時の問題を知る。</p> <p>2. 本時の課題を把握する。 ※<u>自力解決のヒントになる作戦の提示(思考を絞る)</u> ※<u>「少し頑張ればできそう」と思えるように見通しを持たせる。</u></p> <p>3. 自力解決をする。 ※<u>ヒントカードの活用(選択式)</u> ※<u>机間指導を重視し、「やってみたらできた」を味わわせる。</u></p> <p>4. それぞれの考えを話し合い、共通点を明らかにする。 ※<u>全体で課題の解決方法を話し合う。(教師主導)</u></p> <p>5. 本時のまとめをする。 ※<u>子どもたちの言葉を拾ってまとめをつくる。または、キーワードを与えてまとめを書かせる。</u></p> <p>6. 適用問題に取り組む。 ※<u>時間を多めにとる。</u> ※<u>必ず「できた」と思わせる。</u> ※<u>複数問取り組ませる。(ステップアップ式)</u></p> <p>7. 本時の学習を振り返る。 ※<u>観点を与える。</u></p>	<p>1. 本時の問題を知る。</p> <p>2. 本時の課題を把握する。 ※<u>自力解決の作戦の提示(思考を絞る)</u></p> <p>3. 自力解決をする。 ※<u>自力解決は短め。学習内容によっては、はじめから全体で意見を出し合いながらまとめていく。</u> ※<u>机間指導を重視し、手が止まっている児童が多い時点で全体指導へ切り替え。</u></p> <p>4. それぞれの考えを話し合い、共通点を明らかにする。 ※<u>全体で課題の解決方法を話し合う。(教師主導)</u> ※<u>判断を迫る発問をする。(一人思考)</u></p> <p>5. 本時のまとめをする。 ※<u>子どもたちの言葉を拾ってまとめをつくる。または、キーワードを与えてまとめを書かせる。</u></p> <p>6. 適用問題に取り組む。 ※<u>時間を多くとる。</u> ※<u>同じような問題に繰り返し取り組ませる。(嫌にならない工夫)</u></p> <p>7. 本時の学習を振り返る。 ※<u>観点を与える。</u></p>



埼玉県学办学習状況調査



コバトン

発行	埼玉県教育局東部教育事務所
所在地	埼玉県春日部市大沼1-76
発行年月	令和3年1月
TEL	048-737-2729
E-MAIL	n372727@pref.saitama.lg.jp
ホームページ	URL http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2204/